

やまなし 交通安全情報

財団法人 山梨県交通安全協会
財団法人 山梨県交通安全協会各支所
発行所
山梨県交通安全活動推進センター
TEL 055-280-5550
〒400-0202 南アルプス市下高砂847
(ホームページ)
<http://www.yin.or.jp/user/ankyou/>

- | | | |
|------------|-----------|-------------|
| 甲府交通安全協会 | 南甲府交通安全協会 | 南アルプス交通安全協会 |
| 韮崎交通安全協会 | 北社交通安全協会 | 諏沢交通安全協会 |
| 南部交通安全協会 | 笛吹交通安全協会 | 日下部交通安全協会 |
| 富士吉田交通安全協会 | 大月交通安全協会 | 上野原交通安全協会 |
-
- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 自動車安全運転センター山梨県事務所 | 社団法人・山梨県トラック協会 | 山梨県タクシー協会 |
| 社団法人・山梨県バス協会 | 社団法人・山梨県自動車整備振興会 | 山梨県軽自動車協会 |
| 中日本高速道路株式会社八王子支社 | 山梨県自転車軽自動車商協同組合 | 山梨県二輪車安全普及協会 |

CONTENTS

2	上半期の事故件数まとめ 飲酒事故根絶へ全力	6	県安協新会長あいさつ
3	交通安全功労者を表彰	7	二輪車安全運転大会で 武川さんが全国6位
4 5	各地区安協の活動	8	協賛団体の交通安全情報

170号

秋の全国交通安全運動 9月21(火)日から30日(木)

高齢者、二輪車の事故防止へ

街頭指導で交通安全を呼びかける
— 甲斐市竜王の赤坂台総合公園(ドラゴンパーク)入り口



韮崎東中生徒に自転車の事故防止を呼びかける
— 韮崎市藤井町



秋の全国交通安全運動が9月21日(火)から30日(木)までの10日間実施され、県内では山梨県交通安全対策本部と山梨県交通対策推進協議会が主催して展開されます。

同期間中の運動スローガンは「運転は 人に社会に 思いやり」。交通事故死者数に占める割合が高い高齢者への事故防止を全国共通の運動基本に据えるとともに①夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗車中の事故防止(特に反射材用品等の着用の推進)②全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底③飲酒運転の根絶を掲げています。

また、県内では自転車などの事故が多発していることから「二輪車の交通事故防止」を重点目標に掲げ、小中学生らに注意を呼び掛けていきます。

9月30日(木)は 交通事故死ゼロ を目指す日

交通死亡事故は記録に残る昭和43年以降、毎日発生しています。
一人ひとりが交通ルールを守り、交通マナーを実践し、交通事故のない安全で安心な社会を築きましょう。

平成22年
交通安全
スローガン

その電話 運転席では圏外です 安心を 光で届ける 反射材 さあかくにん ライト ブレーキ ヘルメット

飲酒事故増加、根絶へ全力

上半期の事故件数、死者数、負傷者数まとめ

山梨県内の上半期における交通事故件数は2871件、死者数は23人、負傷者数は3690人で、前年同期比で24.3%減、人口10万人当たりでみると2.60人で、全国平均(1.69人)を大きく上回り、全

国ワースト10位と厳しい交通情勢となっています。飲酒運転による事故が増加したことが挙げられます(表7)。発生件数は43件(前年同期比14件増)で、

山梨県内の交通事故発生状況(上半期)

区分	年	平成21年	平成22年	増減
件数		3114	2871	-243
死者		23	23	±0
負傷者		4141	3690	-451

状態別	平成21年	平成22年	増減
歩行中	228	225	-3
自転車	353	308	-45
二輪車	484	383	-101

年代別	平成21年	平成22年	増減
高齢者	767	719	-48
子ども	122	122	±0

道路別	平成21年	平成22年	増減
国道	718	835	+117
主要地方道	586	585	-1
県道	237	196	-41

山梨県内の交通死亡事故発生状況(上半期)

区分	年	平成21年	平成22年	増減
二輪車		13	5	-8
四輪車		6	9	+3
歩行中		2	9	+7

年代別	平成21年	平成22年	増減
若者	8	1	-7
高齢者	8	8	±0

飲酒事故	平成21年	平成22年	増減
全事故	29	43	+14
死亡事故	0	2	+2

山梨県内のシートベルト着用と死亡事故

区分	年	平成21年	平成22年	増減率(%)
着用率		83.1	83.7	+0.6

死亡事故のシートベルト着用率	平成21年	平成22年	増減率(%)
着用率	28.6	0	-28.6

負傷者数は58人(同20人増)、昨年ゼロだった死者数は2人となっています。飲酒運転をすることにより「つい」や「うっかり」はありませぬ。悪質な犯罪です。飲酒運転の根絶に向けて、家庭、職場、地域ぐらゐで「飲酒運転をさせない、許さない」環境をさらに構築していく必要があります。

年代別(表6)では、死者のうち、高齢者が占める割合が34.8%(8人)と最も高く、このうち4人が道路横断中にはねられ犠牲となつてい

ます。高齢者の歩行中の死亡事故の特徴として①日没間もない時間帯に集中している②自宅周辺で被害に遭っている③歩行者から見て、左側から進行してきた車両にはねられるケースが多いなどが挙げられます。

歩行者や自転車の方は、夜間は明るい服装と反射材を着用し「自らの命は自ら守る」という意識が大事です。一方、自動車やバイクを運転する方は、歩行者や自転車の注意を払い「思いやり」と「譲り合い」の気持ちを持つことを心掛けていただきたいと思います。

ところで、後部座席を含むすべての座席でのシートベルト着用が義務化されて2年が経過しましたが、着用率は依然として低調です(表8)。上半期の交通事故当事者のシートベルト着用率は83.7%で、前年に比べやや向上しましたが、100%にはほど遠い状況です。また、死亡事故におけるシートベルト着用対象者は5人いましたが、4人が非着用(残りの1人は着用不明)となっています。

シートベルトは交通事故に遭った場合に、乗員の被害を大幅に軽減するだけでなく、正しい運転姿勢を保ち、疲労の軽減、車外放出や同乗者同士の衝突防止など、さまざまな効果をもたらします。シートベルトの必要性、着用効果を認識していただき、後部座席を含めて着用率100%を目指しましょう。

山梨県警察本部交通部から



山梨県警察本部交通部参事官 佐野 俊夫

高齢者の交通事故抑止と思いやり運転

「1日に平均13.5人」「1時間47分に1人」。

この数値は、昨年全国で発生した交通事故死者数の換算値です。昨年、全国では4914人の尊い命が交通事故の犠牲となりました。このうち65歳以上の高齢者の数は、2452人になり、全体の約半数を占めています。

一方、山梨県内の昨年1年間の交通事故による死者数は38人と、実に57年ぶりに40人を下回る結果となり、「交通戦争」と言われ過去最も死者が多かった昭和44年の227人と比較すると、約6分の1にまで減少しました。

また、高齢者の死者数も前年の26人から13人と半減しましたが、それでも全死者数に占



めると割合は34.2%と依然として高い状況にあります。

本年上半期における交通事故の発生状況は、発生件数、負傷者数は前年より大幅に減少していますが、死者数は前年と同数の23人で、そのうち高齢者は8人と

年代別で最も多く、全死者に占める割合も昨年同様、34.8%と高い比率となっています。

高齢者の死亡事故の特徴をみると、道路横断中にはねられる事故が4人と最も多く、発生時間は日没後間もない時間

帯に集中しているほか、高齢者が第一当事者となった死亡事故が5件発生しています。

また、高齢ドライバーが第一当事者となる交通事故は、468件(16.3%)と、年代別にみましても30歳代の487

件(17.0%)に次いで多く、今や被害者の立場から加害者の立場となるケースが増えています。

ところで、山梨県における65歳以上の高齢者の死亡率は24.2%と、全国平均と比較した場合、2年早いペースで進

んでおり、このまま推移すると、10年後には30%を超える見通しであると言われて

ています。

高齢化の進展は、そのまま高齢ドライバーの増加となっており、本年6月末現在、県内高齢者の免許保有者数は10万6

945人と全体の18%を占め、10年前の約2倍近くに増加しています。また、高齢者が関係する交通事故は、各種高齢者対策により件数こそ減少傾向にあります

が、全事故に占める高齢者事故の割合は、右肩上がりに増加しており、10年前の約

1.6倍となっています。

そのため、高齢者対策は、今後の交通事故抑止対策を推進する上で極めて重要であります。

警察では、総合交通安全センターにおける参加・体験・実践型の交通安全教育、高齢者が多く集まる場所への出前式の交通安全教室、交通関係団体等と連携した高齢者宅への訪問指導活動など、きめ細かな交通安全教育を推進しておりますが、高齢者事故を防ぐには、高齢者自身が加齢に伴う身体機能の衰えを自覚していただくことが何よりも大切だと思っております。そして、それとともに、夜間の歩行では、明るい服装と反射材を着用し、安全な道路横断に心掛けることが大切です。

また、自動車の運転では、自らの運転技術を通信することなく安全で慎重な運転に努めるとともに、地域で開催される体験型の交通安全教室に積極的に参加し、自らの運転技術や特徴などを確認していただきたいと思います。

その一方で一般ドライバーの方には、高齢者に優しく思いやりのある運転を第一に考え、高齢歩行者や自転車利用者を発見した場合は、細心の注意を払い、危険を予測した安全運転に努めるとともに、高齢者マークを付けた車に対しては、車間距離の確保や交差点での減速運転など、高齢運転者保護の観点に立った思いやり運転に努めていただきたいと思います。

結びに、車、バイク、自転車、歩行者が、それぞれの立場で「思いやり」を持ってお互いに助け合い、そして支え合いながら安全で快適な交通環境を築いていただきたいと思います。

南部



南部茶をドライバーに配布

南部安協は夏の交通事故防止県民運動中の7月30日、身延町総合文化会館前の国道で街頭指導を行いました。安協役員や各種交通関係団体の役員、セーフティレディーがドライバーに安全運転を呼びかけました。また、交通安全スローガン入りペットボトルの南部茶に啓発品のタグをつけたものを配布しました。



南甲府



ハンドルキーパー運動 推進へ荻選手が一役

南甲府署は「ハンドルキーパー運動」を推進するため、ヴァンフォーレ甲府のゴールキーパー荻晃太選手を推進アドバイザーに起用。7月8日には荻選手がプレゼンターを務め、同運動に参加している約400事業所に推進を呼びかけました。7月23日には新山梨環状道路で街頭指導所を開設。小物ケース、反射材、ティッシュ等を配り、交通事故防止の徹底を図りました。



富士吉田



観光客らに安全運転PR

富士吉田安協は7月22日、山中湖駐在所前駐車場で「高齢者、子供の交通事故防止見守り指導所」を開設しました。観光客でにぎわうこのシーズンは交通事故も多発します。当日は地区安協役員約100人が参加。地元ドライバーや観光客らにチラシや啓発品を配布しながら、高齢者、子供を中心とした交通事故防止を呼びかけました。



北杜



好評のマスコット製作

北杜安協は、夏の交通事故防止県民運動の一環として、北杜市高根町の北杜ふるさと祭り会場に街頭指導所を開設しました。運動の重点を記したうちわを作成し、大勢の人でにぎわう祭り会場で配布し交通安全を呼びかけました。秋の全国交通安全運動には、毎年好評の女性部手作り交通安全マスコット2千個をドライバーに配布します。



日下部



ガーデンピックを小学校に贈る

日下部署管内では6月、横断歩道を横断中に小学1年生が車にはねられる人身事故が発生。これを受けて、安協では「交通標語入りガーデンピック」を製作し、管内の小学校24校に贈りました。7月21日には、日下部署主催の街頭指導所を開設し、ドライバーや歩行者にチラシや啓発グッズを配布しました。8月4日には日下部安協夏期研修会を開催。水地会長が、「飲酒運転根絶(ゼロ)宣言」をし、交通安全意識高揚を図りました。



鯉沢



祖父母に「孫レター」

鯉沢安協は高齢者の事故防止に役立てようと、園児が祖父母宛に手紙を送る「孫レター」を行い、7月15日に鯉沢署で贈呈式を実施しました。レターの表面は、歩行中に事故に遭わないための注意事項を記載。裏面に園児がメッセージを添えました。祖父母らは「お守り代わりに」と大喜びでした。また7月21日には富士川大橋で街頭指導を行い、反射材付きのペットボトルやチラシを配布しました。



地区安協の活動

甲府



小学生も積極的に参加
 甲府安協石田支部と石田地区交通少年団は8月、交通危険標示マップを基に、11カ所で路面への足跡マークのペイント活動を実施しました。新田支部では7月、のぼり旗60本を作製。甲運支部では、小学生交通安全学習会を開催し、「交通安全あいうえお表」などを配布しました。里垣支部では、同地区の交通少年団員を対象とした自転車教室を開き、安全な走法などを学びました。

地区安協の活動

笛吹



事故防止願い「帽止」ストラップ配布

笛吹安協では7月22日、夏の交通事故防止県民運動に伴い交通街頭指導所を開設しました。笛吹安協石和支部のメンバーや笛吹市交通指導員、笛吹警察署員らが参加。安協女性部が事故防止になぞって「帽子」のストラップを作り、季節の花や団扇、ポケットティッシュなどと一緒に通行する車両の運転者等に対し、安全運転を呼びかけながら配布しました。

韮崎



通勤者や中学生に安全運転呼びかけ

韮崎安協は7月21日、竜王、敷島、双葉の3地区で、夏の交通事故防止県民運動街頭指導を展開しました。甲斐市、韮崎警察署などの協力の下、朝の通勤時間帯に安全運転を呼びかけました。7月14日には韮崎東中学校門前で自転車通学する生徒にチラシなどを配布。同日は甲斐市の赤坂台総合公園(ドラゴンパーク)でもシートベルト着用を促す街頭指導を行いました。

大月



大月インター近くで街頭活動

大月安協は、夏の交通事故防止県民運動の一環として7月21日、街頭啓発活動を行いました。安協メンバーをはじめ、大月警察署員、同市交通指導員、母の会、安管会長など合わせて約50人が参加。国道20号の中央道大月インターチェンジ信号付近で啓発用品を配布し、交通安全を呼びかけました。



南アルプス



6カ所で一斉に街頭指導

南アルプス安協は、7月21日、信玄橋西詰交差点、小笠原橋北詰交差点など6カ所で、夏の交通事故防止県民運動に伴う街頭指導を実施しました。安協メンバーや南アルプス署員、同市関係者ら約200人が参加。通勤時間帯の午前7時半から8時半までの1時間、チラシなどの広報啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。

上野原



国道20号などで街頭指導

7月21日、上野原市役所センタープラザで夏の交通事故防止県民運動の出發式が行われました。上野原安協、各種交通関係団体、市役所職員、警察署員らが出席。江口市長、葉袋警察署長、田中安協会長から激励の言葉をいただき、期間中の安全運転、交通事故防止活動に積極的に活動することを再確認しました。その後国道20号や市道で街頭指導を行い、啓発物品を配布し安全運転、交通事故防止を呼びかけました。

安協会員入会のお願い

山梨県交通安全協会は、免許証の取得・更新時に会費を任意でお願いしております。協力をいただいた方の会費は、皆様の居住地の交通安全協会が悲惨な交通事故を一件でも減らすために、街頭交通安全指導、自転車教室、高齢者安全講習等の各種活動を行っておりますが、こうした活動の経費として活用させていただいております。

交通安全協会会員の皆様への支援

弁護士無料法律相談

会員が交通事故を発生させたか又は交通事故の被害者となった場合、損害賠償等で疑問があったときは当協会の委託弁護士による無料の法律相談が受けられます。

詳しくは、山梨県交通安全協会 (☎055・280・5550) にお問い合わせください。

交通事故見舞金制度

会員が不幸にして交通事故で死亡した場合や後遺症が生じた場合は、20万円を限度とした見舞金を交付しております。

免許証ケース及び

セーフティー・ドライブマップの進呈

免許証の亡失、損傷を防止するため滑り止めのついた免許証ケースを進呈します。

Eメール会員へのサービス

運転免許の更新時期のお知らせや安全運転に役立つ情報を提供します。

「ハンドルキーパー運動」推進中

ハンドルキーパー運動とは？

自動車仲間と飲食店などに行く場合に、お酒を飲まない人（ハンドルキーパー）を決め、その人が、仲間を自宅まで送り届ける運動です。

山梨県交通安全協会では、山梨飲食業協同組合をはじめとする関係者のご協力を得ながら飲酒運転の根絶を目指して、「ハンドルキーパー運動」を推進しています。



爽やかな季節を迎え、秋の気配が次第に濃くなつて参りましたが、皆様方には健やかに過ごされたこととお慶び申し上げます。過日開催されました、山梨県交通安全協会定期理事会におきまして、会長に選任いただきました小澤でございます。

財団法人山梨県交通安全協会は、大正13年に「山梨交通安全協会」という名称で官営組織として生まれ、昭和23年9月に従来の官営組織を民間組織に改め、財団法人山梨県交通安全協会として生まれ変わったわけですが、初代会長に山梨交通の創立者である矢崎源之助氏が就任し、昭和31年4月には第2代会長に山梨交通専務の金丸康三氏が就任するなど、発足当時から深い縁を感じているわけでございます。

当協会は、多くの会員や歴代の会長が脈々と続く歴史と伝統を守り、民間の交通安全活動の中核的団体として活動しております。その民の皆様をはじめ関係機関、団体のご支援と協力をいただき協会の発展のため、その重責を果たして参る所存であります。

さて、近時の県内の交通事故発生状況は、発生件数、負傷者とも減少しているものの、飲酒事故や死亡事故が昨年より増加するなど厳しい交通情勢となっております。

健全な交通社会の実現へ

山梨県交通安全協会会長 小澤 建雄



交通事故が減少しているとはいえ、まだまだ多くの尊い命が他人の不注意によって奪われている現状を鑑みますと、交通事故の抑止は引き続き県民の安全・安心にとって最大の課題であります。

当協会といたしましては、交通事故の減少が県民への究極のサービスであること認識し、健全な交通社会実現のため、時代や環境の変化を敏感に感じとり、新しい時代にふさわしい活動を展開し、県民の期待に応えて参ります。

さらに、公益法人としての役割を十分理解し、県民の皆様信頼いただける交通安全協会となるよう積極的に活動していきたいと考えております。

結びになりましたが、皆様のご健勝を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

女性部登場

5 上野原交通安全協会

4支部66人で構成



上野原市は山梨県の東の玄関口であり、高速道路や国道は、土日の午後3時頃になると行楽地からの帰りの車で渋滞となり、追突事故が多発する状況です。このような地域にある上野原交通安全協会では、本年4月、38年間の長きにわたり、交通安全啓発活動にご尽力いただいた和田前会長から、田中新会長に交代しました。上野原交通安全協会女性部も他の会員の皆さんと力を合わせ、新会長とともに協力し交通安全活動に携わって参りたいと思っております。

また、春や秋に行われる全国交通安全運動の街頭啓発活動では、運転手に配布する啓発物品のマスコットを毎年工夫を凝らして手作りし、交通事故防止の一助としております。昨年は、ビーズのストラップを作製して、心を込めた交通事故防止のスローガンを付けて配布したところ、「とても可愛らしい」と喜んでいただきました。さらに前会長の発案で「安全は、人も車もゆずり合い」の合言葉から、桐原地区名産の「ゆず」を配布し交通事故防止を呼びかけました。こちらも「今夜、お風呂に入れて香りを楽しむよ」などと、とても好評をいただいております。女性部は、これからも上野原署や、各種交通安全関係団体の方々と協力し、交通事故のない地域を目指して交通事故防止啓発活動に尽力していきたいと思っております。(文・清水とも江)

啓発用にマスコット手作り 東の玄関口で事故減めざす

上野原市は山梨県の東の玄関口であり、高速道路や国道は、土日の午後3時頃になると行楽地からの帰りの車で渋滞となり、追突事故が多発する状況です。このような地域にある上野原交通安全協会では、本年4月、38年間の長きにわたり、交通安全啓発活動にご尽力いただいた和田前会長から、田中新会長に交代しました。上野原交通安全協会女性部も他の会員の皆さんと力を合わせ、新会長とともに協力し交通安全活動に携わって参りたいと思っております。

高い無事故率

早く優しい地元のための教習

山梨県公安委員会指定

公認 **岳麓自動車教習所**

富士吉田市新西原5-5-1
☎0555-22-1689
普一、大型一・二、大特
けん引、自二
(合宿施設有)

交通安全子供自転車山梨県大会

高根東小Aが団体14連覇

個人は下條君が優勝

第41回交通安全子供自転車山梨県大会(山梨県交通安全協会、山梨県警察本部共催)が6月19日、山梨県総合交通センターで開かれました。団体部門では北杜市立高根東小Aチームが14連覇(通算32回)



二輪車安全運転全国大会で団体14位と健闘した山梨県勢(写真上)。4クラスで運転技術や正確性などを競った(同下) =三重県鈴鹿サーキット

二輪車安全運転大会



第40回二輪車安全運転山梨県大会(山梨県交通安全協会、山梨県二輪車安全運転推進委)

鈴木さん(一般)県大会を制す

武川さん全国で6位

参加者は日ごろ二輪車を利用してライダーで、今大会には38人が参加し、

各クラスの優秀者は7月31、8月1の両日、三重県鈴鹿サーキットで開催された第43回二輪車安全運転全国大会へ出場、個人で武川健太さんが6位、団体で山梨県代表は14位と健闘しました。入賞者

および全国大会出場者は次の通りです(敬称略)。
 ◆一般Bクラス▼優勝(知事賞)鈴木さん、準優勝(県安協会賞)高木哲司▼第3位(同)竹沢秀一
 ◆一般Aクラス▼優勝(県安協会賞)前田雅大▼準優勝(県安協会賞)山口慶一▼第3位(同)山下耕司
 ◆高校生等クラス▼優勝(県安協会賞)武川健太▼準優勝(県安協会賞)岡部哲也▼第3位(同)木村泰河
 ◆女性クラス▼優勝(県安協会賞)矢崎美穂▼準優勝(同)瀬ゆりえ▼第3位(同)伊藤帆南



山梨県安協の天野専務理事から優勝旗を受け取る高根東小の児童(写真上)。県大会には16チーム、77人が参加して日ごろの練習の成果を競った(同下) =県総合交通センター

目を達成。個人部門では高根東小Aの下條晃太君が優勝を飾りました。大会は、自転車安全教育競技を通じ児童に交通安全について興味と関心を高めるとともに、交通安全知識を身に付けても

らい、さらにその習慣化を図ることによって交通事故防止の目的を達成しようとする毎年開かれていきます。県内の各地区代表11校16チーム77人の選手が参加して、学科600点、実技600点

の通り(敬称略)。
 ◆団体部門
 ▼優勝(県警本部長・県安協会賞)知事賞、関東管区局長・関東安協連合会会長賞)高根東小Aチーム
 ▼準優勝(県警本部長・県安協会賞)下條晃太(高根東小)

の合計1200点からの減点方式で競いました。学科、実技の優秀賞は各12人で、県安協より賞品を贈りました。同校は8月5日、山梨県代表として東京ビッグサイトで開催された第45回交通安全子供自転車全国大会へ出場しました。

高根東小Bチーム(県警本部長・県安協会賞)浅川稜(高根東小)▼第3位 横森裕二▼第4位 安達勇亮▼第5位 村川亮輔(以上高根東小)▼第6位 佐野淳希(栄小)▼第7位 中嶋拓也▼第8位 中嶋諒(以上高根東小)▼第9位 仙洞田大芽▼第10位 杉山大征(以上栄小)▼第11位 浅川稜(以上高根東小)

山梨県自転車安全教育推進委員会と山梨県自転車軽自動車商協同組合は、全国的に増加傾向にある自転車事故を防止するため、県下各高等学校、老人クラブ等からの要請に基づいて、現地に赴いて自転車安全無料点検を実施しております。

組合では昨年、82会場で無料点検を実施した結果、事故に直結するブレーキ等の制動装置不良が65%、ライト等照明装置不良が40%と上位を占めており、これらは道路交通法に違反し、罰則もありませんので、プロの組合員が

整備した自転車を利用して、貼付推進も実施してあります。T.Sマークとは、自転車安全整備店で、点検・整備を受けると貼付されるもので、賠償責任保険と傷害保険が付いており、もしもの時に安心です。

山梨県警察本部からのお願い APEC警備へのご協力を

11月13、14の両日、神奈川県横浜市でアジア太平洋経済協力会議(APEC)が開催されますが、これに対し、反対勢力によるテロや過激な抗議活動などが懸念されています。山梨県警では、同会議の安全と皆さまの平穏な日常生活を守るため①県内にテロリストの潜伏場所をつくらせない②県内を爆発物原材料等の供給地にならないための対策を講じてまいります。

県民の皆さまのご協力も不可欠となります。自動車爆弾に使われないよう、自動車盗難防止のための確実なドアロックをお願いいたします。危険な薬品類や銃砲、火薬類等の保管・管理の徹底も重要です。万が一、盗難の被害に遭ったら速やかに警察にご連絡ください。大型施設や電車内で不審物を発見した際は、お近くの係員に連絡してください。

また、会議期間中は大規模な交通規制が行われます。都内や横浜方面にお車でお出掛けされる場合は、交通情報にご注意ください。ご不明な点がございましたら、お近くの警察署にお問い合わせください。

SDrive Safety

山梨中央広告社グループ
 YAMAHASHI ADVERTISING TRANSPORT CO.
 株式会社 山梨広告運送
 中央市西新居330-7
 TEL.055-274-3822 FAX.055-274-3842
 http://www.yamanashi-orkomi.com

自転車「無料点検」実施中

整備した自転車を利用して、貼付推進も実施してあります。T.Sマークとは、自転車安全整備店で、点検・整備を受けると貼付されるもので、賠償責任保険と傷害保険が付いており、もしもの時に安心です。

自転車事故の防止に向けて県内各地で実施している無料点検

中日本高速道路株式会社

高速道路 無料化社会実験 ~ご案内~

期間 | 平成22年6月28日から平成23年3月31日まで実施します。

無料となるご利用も、有料となるご利用も、通行方法は従来と同じです。
ETC車はETCカードを車載器に挿入のうえ、ETCレーンをご通行いただき、現金車等(ETC車以外)は、一般レーンで一旦停止してください。



注) 社会実験として、効果把握や実験所要額の精算のため、正確な交通データの収集が必要であり、従来どおりの方法での通行をお願いします

※東富士五湖道路(富士吉田及び須走料金所)に通行券はありません。料金精算機前で一旦停止いただき、開閉バーが開くのを確認のうえご通行下さい(開閉バーは一台ずつ開きます)

対象路線 | NEXCO中日本の無料化社会実験区間



山梨県軽自動車協会

ライフラインとしての軽自動車

660ccの小さな排気量で、しかも少ない原材料で車両重量も軽い軽自動車は、省エネ、省スペース、低燃費等、環境に優しい車として多くのユーザーから支持され、更に地方では、日常生活の「足」となって活躍しています。

この結果、全国の軽自動車の保有台数は、2010年3月末では2,665万台と全自動車の保有台数7,518万台の35.5%の普及率となっており、県内でも、29万台を超え全自動車の保有台数69万7千台の41.7%と全国平均を6.2%上回る普及率となっています。

また、09年の軽自動車保有台数と世帯当たりの普及台数では、関東エリアで第1位、全国でも第8位となり、100世帯当たり84.3台と世帯当たりの台数の拡大が進み、本年もこの傾向は続くものと考えられます。

軽自動車の使用実態については、日本自動車工業会が各年で調査を継続しており、09年度の軽自動車の使用実態調査結果では、軽自動車を選択した理由として、「経済面」をあげる比率が73%を占め、経済的負担が少ないことが意識される傾向が続き、また、特に選択理由として「燃費が良い」との声も増加しています。

このほか、交通不便地域の足としての観点では、代替交通手段として、通勤、通学や買物などの日常生活の移動手段として使用されることが多く、人口規模が小さくなるほど軽自動車の使用率は高くなっています。

女性の足としての観点からは、主用途は「買物」が最も多くなっています。

また、女性ユーザーの80%以上が既婚女性であり、既婚女性の就業率が高い県ほど高い普及率となっています。

このように軽自動車は、地方の街では交通手段を支える足として、高齢者や女性にとっては暮らしの頼れる移動手段として、更には環境に優しい乗り物として、クルマ社会の未来を担っていくのではないのでしょうか。

市郡区別車種別世帯別等軽自動車保有台数

地域名	世帯数	保有台数	100世帯当たり台数	就業台数	女性の就業台数	女性の就業率	女性の就業率	女性の免許保有率
県合計	328,786	290,619	88	440,270	187,375	42.56%	24.8%	44.9%
市郡合計	283,178	245,616	87	375,250	159,926	42.62%	24.8%	45.0%
郡部合計	45,608	45,003	99	65,020	27,448	42.22%	24.4%	43.9%
甲府市	85,839	49,961	58	91,232	39,464	43.26%	22.76%	45.0%
富士吉田市	17,714	16,013	90	27,118	11,547	42.58%	26.06%	44.4%
都留市	13,535	9,546	71	18,565	7,099	42.86%	23.66%	43.4%
山梨市	13,430	15,995	119	20,159	8,890	44.10%	26.75%	46.3%
大月市	10,415	8,782	84	13,976	5,892	42.19%	20.92%	41.9%
並木町	11,733	12,238	104	16,744	6,996	41.78%	24.93%	44.5%
南アルプス市	24,709	28,661	116	38,162	16,204	42.46%	26.97%	46.4%
北杜市	16,588	19,899	120	26,096	11,316	43.36%	26.97%	44.1%
甲斐市	28,956	22,413	77	37,668	15,283	40.57%	24.55%	45.9%
笛吹市	26,181	28,987	111	38,849	17,096	43.76%	28.15%	46.3%
上野原市	10,232	6,810	67	13,273	5,297	39.91%	20.96%	41.9%
甲州市	11,931	15,304	128	19,135	8,263	43.18%	26.81%	45.0%
中央市	11,915	11,009	92	16,473	6,809	41.33%	25.71%	45.3%
西八代郡	5,824	6,321	109	8,819	3,737	42.37%	23.82%	42.9%
南巨摩郡	15,049	15,628	104	21,268	8,920	41.94%	22.22%	42.7%
中巨摩郡	6,927	5,730	83	9,066	3,721	40.91%	27.02%	44.6%
南都留郡	17,125	16,695	97	25,072	10,766	42.94%	26.12%	45.2%
北都留郡	683	629	92	765	305	39.87%	18.93%	36.8%

※保有台数は、平成22年3月末現在 (全国軽自動車協会資料)
※世帯数は、平成22年6月1日現在 山梨県の推計人口と世帯数 (企画県民部統計調査課資料)
※就業台数は、平成17年度国勢調査 都道府県別 男女別就業台数、15歳以上人口 (総務省資料)
※平成22年6月現在 市町村別、年齢別、免許保有状況資料 (県警本部資料) ※は、上位5位

山梨自動車学校

山梨県唯一! 全車種教習ができます。

山梨自動車学校は山梨県公安委員会指定の教習所です
免許取得後の生徒の皆様への安全運転のためにも、安全・わかりやすさ・楽しさを追求し、常に新しい取組にチャレンジしていきます。



山梨県公安委員会指定

山梨自動車学校

山梨県南アルプス市下高砂847
TEL.055-285-0752 FAX.055-285-0701
URL:http://www.y-ds.jp/ i-mode:http://www.y-ds.jp/i/



年中無休 ☎0120-915752

安心・安全なバスの運行をめざして

(社) 山梨県バス協会

7月3日、山梨運輸支局主催の「バリアフリー教室」が開催されました。山梨県バス協会では例年この教室に協賛しており、会員事業者のバス乗務員が参加しています。

当日は、聴覚障害者の交通バリアフリーについて、体験談を交えた手話による講義と、笛吹市社会福祉協議会の担当者による車椅子利用者に対する支援のポイント等の解説を聞いた後、障害者・高齢者の疑似体験が行われました。

参加者は、講義では簡単な手話を覚えたり、疑似体験では、車椅子を使用したり、アイマスクや高齢者疑似体験セットを着用した状態で、実際にバスへの乗り降りを体験。自分の体を動かして経験することで、利用者の立場に立った支援の仕方についてより理解を深めたようです。



バリアフリー教室の様子

山梨県バス協会加盟バス会社は、今後もこのような講習会を通して、皆様に安心してバスをご利用いただけるよう努めてまいります。

山梨県タクシー協会

運転免許返納者に対する運賃割引のお知らせ

高齢化社会を迎え、国民皆免許時代に免許を取得した方々のうち、加齢による視力・聴力・注意力等々、身体機能の衰えにより自動車交通事故の加害者、被害者となる事故が県内では年々増加しており、大きな社会問題となっております。

そこで、山梨県タクシー協会では、高齢者の交通事故防止と新たな利用者の拡大を図るため、自主的に運転免許証を返納した場合、従前と変わらない移動をしていただくために、タクシー利用者に対し運賃の割引を実施しております。

実施地域：山梨県全域 (会員91事業者中80事業者実施)

適用範囲：『運転経歴証明書』を提示して割引を申し込んだ場合に限り適用します。

割引の併用：運転免許返納者割引は、他の割引との併用はできません。

割引率：1割 (10%)

割引の対象区間：運転経歴証明書持参者が乗車した区間。

その他：運転免許取消申請等については最寄りの警察署へお問い合わせ下さい。